



一般社団法人日本物流団体連合会  
Japan Association for Logistics and Transport

〒100-0013  
東京都千代田区霞が関3丁目3番3号  
全日通霞が関ビル5階  
TEL:03-3593-0139  
FAX:03-3593-0138  
URL:www.butsuryu.or.jp

News Release

令和6年6月20日

## 第25回物流環境大賞の受賞者を決定

### -大賞は味の素冷凍食品株式会社、F—L I N E株式会社に決定-

一般社団法人日本物流団体連合会（会長：真貝康一）は、選考委員会（委員長：流通経済大学 野尻俊明理事長）の審議を経て、第25回「物流環境大賞」の受賞者を決定しました。

「物流環境大賞」は、物流部門における環境保全の推進や環境意識の高揚等を図り、物流の健全な発展に貢献された団体・企業または個人を表彰する制度で、今回で25回目となりました。

「物流環境大賞」の各賞の概要は別紙1のとおりですが、このうち「大賞」は、味の素冷凍食品株式会社ならびにF—L I N E株式会社が共同で取り組んだ「冷凍食品の環境にやさしく持続可能な幹線輸送の実現」が受賞しました。温度管理が厳しい冷凍食品を貨物鉄道輸送に転換したことと、船・鉄道・トラックの3パターンでのモーダルコンビネーションを推進し、海上・鉄道輸送の比率を上げた点により、大きくCO2排出量削減に貢献したことが評価されました。

また各賞として、「低炭素物流推進賞」3件、「サステナブル活動賞」1件、「日本物流記者会賞」1件、「特別賞」19件を選定し、今回は「先進技術賞」は対象なしとなりました。

各受賞概要は別紙2のとおりです。

なお、表彰式は6月28日(金)14時30分より「第一ホテル東京」にて開催します。

物流連は、今後も環境負荷軽減の面から物流業の発展に寄与された方々を表彰し、物流における環境対策の普及促進に貢献してまいります。

以上  
事務局：島田

# 物流環境大賞表彰 各賞の概要

## 物流環境大賞

物流における環境負荷低減に資する取組みのうち、最も優秀な取組みを実施した事業者等へ授与します。

### 低炭素物流推進賞

モーダルシフトの推進、輸送網の集約、輸配送の共同化等の物流効率化を図る優れた取組みであって、温室効果ガスの削減に資する優れた取組みを実施した事業者等へ授与します。

#### 【例】

- ・鉄道、海運へのモーダルシフト（ラウンドユースの実現、リードタイムの見直し等があれば尚可）
- ・輸送網集約（拠点集約等）
- ・共同輸配送（情報共有システムの高度化等があれば尚可）
- ・異業種間による共同輸配送

### サステナブル活動賞

環境保全に資する優れた取組み、または環境啓発活動を行い、サステナブルな社会の実現に貢献し、もって物流の健全な発展に貢献した事業者等へ授与します。

#### 【例】

- ・循環経済を推進する物流
- ・環境保全に資する輸送機器の導入（環境対応車等）
- ・環境保全に資する調査・実証事業（海洋プラスチックごみの回収等）
- ・次世代燃料の先行的な使用
- ・環境にやさしい物流施設の整備（太陽光、風力、自然採光、自然換気等を含むもの）
- ・環境保全に資する輸送体系の見直し（館内物流等）
- ・環境啓発活動（環境保全に関する物流情報提供システム等）

### 先進技術賞

物流の高度化、効率化、デジタル化に対応し、環境負荷低減に資する先進的な技術開発を行い、または先進技術を活用して環境負荷低減に資する物流システム、輸送機器、施設等の創出を図り、もって物流の健全な発展に貢献した事業者等へ授与します。

#### 【例】

- ・AI、IoT等のデジタル技術を活用した先進的な物流システムの構築（物流DXによる輸送効率の向上・輸送の最適化等）
- ・環境負荷低減に資する先進的な物流施設・輸送機器の開発・活用

### 日本物流記者会賞

特別賞に該当する案件の中で、日本物流記者会が特別に選出した取組みを行った事業者等へ授与します。

### 特別賞

その他、物流における環境保全の推進、環境意識の高揚等を図り、もって物流の健全な発展に貢献した事業者等へ授与します。

## 第25回表彰受賞者の概要

## 物流環境大賞

受賞者：味の素冷凍食品株式会社  
F—LINE 株式会社

案件名：冷凍食品の環境にやさしく持続可能な幹線輸送の実現

年間CO2削減率：30.9%（宮城）、17.4%（九州）

千葉県から宮城県までの冷凍食品輸送について、冷凍トラックによる輸送からの鉄道輸送（隅田川駅～仙台貨物ターミナル駅）に転換した。これにより冷凍トラックの使用台数を減らすことができ、CO2排出量を削減した。

冷凍食品は温度管理が厳しく、鉄道輸送への転換が難しかった品目の一つで、特に中距離帯（400 km）圏内は珍しい取り組みである。

また、鉄道、トラックの2パターンで輸送していた長距離帯（1,000 km以上）九州発貨物についても、鉄道・船舶輸送比率を向上させてCO2排出量を削減した。今後、さらなる環境保全の推進や、物流の健全な発展に貢献が期待される。

## 低炭素物流推進賞

受賞者：大成コーレック株式会社  
日本通運株式会社  
日本貨物鉄道株式会社

案件名：建築現場のプレキャストコンクリート部材輸送における鉄道輸送の導入

CO2 削減率：81%（滋賀）、87%（広島）、85%（愛知）  
CO2 削減量：24.8 t（滋賀）、17.9 t（広島）、20.0 t（愛知）

埼玉県にある工場で作られた建築資材のプレキャストコンクリート（※）部材輸送について、階段や柱など、従来は大型トラックで運んでいた資材を 12ft コンテナに収まるサイズ、重さで製造してコンテナに格納し、幹線部分に鉄道を使って各建設現場へ輸送することで CO2 排出量を削減した。今後も全国各地の建設現場に 12ft コンテナでの輸送を進めるほか、同社所有 20ft 専用コンテナの開発にも着手して鉄道輸送の割合を増やしていく。

（※）プレキャストコンクリート：予め工場で作られたコンクリートのこと。輸送時間を加味しても、現地で作るより施工時間が短く済むメリットがある。

受賞者：ネスレ日本株式会社

案件名：ペットボトルコーヒーの中距離帯輸送における鉄道モーダルシフト

年間 CO2 削減量：900 t

静岡県から関西地区のペットボトルコーヒーの輸送について、トラックによる陸送から貨物鉄道輸送（JR 静岡貨物駅→JR 百済貨物ターミナル駅）に転換した。毎日 200 t = 12ft コンテナ 40 本分を 5 列車に分けて輸送し、この取り組みにより、年間でトラックは 4000 台、CO2 排出量を大幅に削減できる見込みである。食品・飲料業界初（※）の中距離帯（300 km）でのモーダルシフトを実現したことによって、他の荷主企業へ貨物鉄道輸送を啓蒙するとともに、今後もより貨物量の多い中距離輸送の新たな輸送網の構築に積極的に取り組んでいく。

（※）1 社で 200 トン/日規模の輸送において、ネスレ日本、JR 貨物調べ（2024 年 1 月末時点）

受賞者：フジパン株式会社  
株式会社リョーユーパン  
株式会社フランソア  
株式会社タカキベーカリー  
佐川急便株式会社

案件名：九州大分県下のパン共同配送プロジェクト

年間 CO2 削減率：18.7%

年間 CO2 削減量：170.2 t

大分県内におけるパンの輸配送について、共同配送センターを設けることで製パンメーカー4社の商品を集約、パンの共同配送を実現した。年間で車両台数を36%抑制し、CO2排出量を削減した。30年前から製パンメーカーによる共同配送の構想はあったが、佐川急便(株)のセンターを活用することで共同配送を実現することができた。今後、大分県内ではパン以外の日配品でも共同配送を広げ、九州の他エリアでもパンの共同配送を進めていく予定である。

## サステナブル活動賞

受賞者：日本通運株式会社

案件名：建材端材の複数品目同時回収  
(石膏ボード・グラスウール・岩綿吸音板端材の再資源化)

年間 CO2 削減率：65%

年間 CO2 削減量：1 t

今までリサイクルされることなく埋め立て処分されていた建材端材の一部品目を、キャスター付き専用回収容器「NRBOX」を利用して回収することで、建材原料として再資源化した。容器は観音開きのかご車タイプで異物混入がわかりやすく、専門工事業者ごとの建材端材の管理・回収が可能となり、回収できた端材に関してはすべてリサイクルして資源となっている。

各種品目・建材端材の同一車両による運搬が可能になったため、回収車両台数を削減することによってCO2 排出量を削減した。今後、順次、複数品目の回収現場を拡大していく予定で、環境負荷低減に貢献していく。

## 日本物流記者会賞

受賞者：佐川急便株式会社

案件名：輸送に使用したストレッチフィルムの再利用

年間 CO2 削減量：74.8 t

これまで産業廃棄物として処理していた使用済みストレッチフィルムを回収、再利用してエチレン製ゴミ袋などの原材料として活用し、有価物として販売した。製造されたゴミ袋は佐川急便(株)も購入している。2022年度は約24トンの使用済みストレッチフィルムをごみ袋へリサイクルして、CO2排出量を削減した。また、ストレッチフィルムの使用量削減のため、繰り返し使用可能なグリーンベルト活用した養生にも取り組む。今後は、現在89か所あるフィルムの回収箇所を順次増やし、取り組みを拡大予定である。

## 特別賞（五十音順）

受賞者：カバヤ食品株式会社  
リンク&リンクージ株式会社  
株式会社ロツテ  
株式会社曙運輸  
全国通運株式会社  
日本貨物鉄道株式会社  
日本石油輸送株式会社

案件名：31ft スーパーUR コンテナを活用したラウンドマッチング  
輸送の取組み

年間 CO2 削減率：74%（往路）、77%（復路）  
年間 CO2 削減量：56.8t（往路）、59.3t（復路）

(株)ロツテの埼玉県から岡山県までのトラック輸送及びカバヤ食品(株)の岡山県から埼玉県までのトラック輸送をそれぞれ鉄道輸送に転換し、専用の31ft スーパーUR コンテナ（断熱性能が高い真空断熱パネルを使用）を利用した往復マッチング輸送を実現した。コンテナ往復利用することで物流の効率化に寄与し、CO2 排出量の削減につながった。

受賞者：共栄社化学株式会社

案件名：陸送から海運へのモーダルシフト推進

年間 CO2 削減率：80%  
年間 CO2 削減量：282t

滋賀県から佐賀県の化学品輸送について、トラック輸送から RORO 船による海上輸送（敦賀港～博多港）へ転換した。九州地区の関係企業からの返り荷も確保しており、海上輸送に変更することで CO2 排出量を削減した。今後も航路調査を行い、海上輸送適用拡大のために検討を続けていく。

受賞者：株式会社クラベ  
ユニ・チャーム株式会社  
鴻池運輸株式会社  
ロジスティードエクスプレス株式会社  
ロジスティード株式会社

案件名：二社間のコンテナラウンドユースによるCO2 排出量  
削減への取り組み

年間CO2削減率：35%  
年間CO2最大削減量：41t

清水港を利用し、(株)クラベの資材輸入とユニ・チャーム(株)の製品輸出を連携、コンテナラウンドユースの運用を開始した。港に空回送で戻るコンテナの本数を削減することで、CO2排出量の削減を実現した。今後、本取り組みの運用経験を活かして他社への横展開を検討している。

受賞者：佐川急便株式会社  
西濃運輸株式会社

案件名：本州最北端の青森県下北郡向け荷物の共同輸配送

年間CO2削減率：53%  
年間CO2削減量：94.6t

青森県下北郡向けの一般貨物、宅配貨物について、岩手県内の拠点（佐川急便(株)・岩手営業所／西濃運輸(株)・盛岡支店）に集約、佐川急便(株)が配送することでトラック台数とCO2排出量を削減した。人口減少地域向けの幹線輸送と配送を共同化することで、持続可能な輸送を実現している。

受賞者：佐川急便株式会社  
株式会社ユーグレナ

案件名：ユーザーも参画する「サステナブル配送プロジェクト」と  
プロジェクトの仕組みを横展開したトライアスロン大会用品の  
輸送

年間 CO2 削減量：4.1t (プロジェクト)  
CO2 排出量：実質 0t (トライアスロン)

荷主、物流事業者、消費者が出資し、(株)ユーグレナが提供するバイオマス燃料「サステオ」を佐川急便(株)が配送で使用する取り組みを行った。

また、関東から滋賀県までのトライアスロン大会用品の輸送について、トラック輸送は「サステオ」で CO2 排出量を相殺、鉄道輸送は J-クレジットを利用することにより CO2 排出量をオフセットし、サステナブルな物流でイベントをサポートした。

受賞者：山九株式会社  
三井化学株式会社

案件名：物流導線と輸送手段の変更による CO2 削減の取り組み

年間 CO2 削減率：84%  
年間 CO2 削減量：56t

福岡県から千葉県への化学製品の輸送について、トラックによる小ロット輸送から鉄道輸送（鳥栖貨物ターミナル駅→千葉貨物駅）へ転換し、CO2 削減ならびにドライバー負担軽減を実現した。千葉地区にある拠点を経由することで1回あたりの輸送効率を向上させて、CO2 排出量削減に貢献している。

受賞者：山九株式会社  
三井化学株式会社  
徳山通運株式会社

案件名：鉄道輸送を活用した CO2 削減の取組み

年間 CO2 削減率：90%  
年間 CO2 削減量：65t

山口県から大阪府への化学製品の輸送について、トラック輸送から鉄道輸送（新南陽駅→大阪貨物ターミナル駅）へ転換し、CO2 削減ならびにドライバー負担軽減を実現した。今後同様の取組みを拡大する予定である。

受賞者：新日本海フェリー株式会社  
キリングroupロジスティクス株式会社  
マリネックス株式会社

案件名：長野県～北海道間の飲料フェリー輸送における輸送効率の向上

年間 CO2 削減率：14.6%  
年間 CO2 削減量：45.9t

長野県から北海道までの清涼飲料水のフェリー輸送について、14m大型シャーシを使用して積載量を 17%上げ、車両台数削減による CO2 排出量削減を実現した。大型シャーシを活用するにあたり、荷主に商習慣を変更して 26 枚パレット分→30 枚パレット分で出荷準備してもらうなど協力を促した。

受賞者：セイノーホールディングス株式会社

案件名：九州向け「北大阪輸送ハブ」の開設による、輸送効率化と  
CO2 排出量削減の実現

北大阪トラックターミナル内にある支店を統合し、「北大阪輸送ハブ」を開設。集配業務を行わない継送に特化した九州向け専門店として導線を整理し、125 台の搬入トラックの積み下ろしを 1 時間/日 短縮させた。荷待ちによるアイドリング時間を削減することによって CO2 削減に貢献した。

受賞者：東京九州フェリー株式会社  
株式会社ブリヂストン  
ブリヂストン物流株式会社  
マリネックス株式会社

案件名：栃木県～福岡県向けタイヤ輸送  
トラック輸送からトレーラー輸送に全量転換

年間 CO2 削減率：57.8%  
年間 CO2 削減量：261t

栃木県から福岡県までのタイヤの拠点間輸送について、トラック輸送していた全量をフェリー輸送（横須賀港～新門司港）に転換した。さらに 13m 未満シャーシを使用して積載率を 17% 上げ、輸送台数を削減することによって CO2 排出量を削減した。

受賞者：日本梱包運輸倉庫株式会社

案件名：ダブル連結トラック乗り継ぎ運行(北関東～広島)による  
CO2 排出量の削減

年間 CO2 削減率：28%  
年間 CO2 削減量：668.7t

北関東から広島県間の自動車用部品輸送について、大型トラックによる輸送から、ダブル連結トラック輸送に転換し、車両運行台数削減によって CO2 排出量を削減した。鉄道のような緻密な運行ダイヤを組み、乗り継ぎ運行を定期化することで乗務員の運転時間と高い積載率を確保している。

受賞者：日本通運株式会社

案件名：「プロテクト BOX with Fresh Logi」によるエコな保冷輸送の実現

年間 CO2 削減率：10～20%

企業向け小口貨物輸送商品「プロテクト BOX」に旭化成(株)が開発した断熱材(ネオマフォーム)を素材とした保冷輸送容器「Fresh Logi」をはめ込み、貨物の温度を一定時間保ったまま輸送できるサービスを開発。蓄冷剤やドライアイスを使わず、予冷された貨物から出る冷気で BOX 内を低温に保つことができるため冷蔵冷凍の施設・車両等が不要になり、輸送 CO2 削減に貢献。

受賞者：三井倉庫株式会社  
いすゞロジスティクス株式会社

案件名：横浜港湾地区でのコンテナラウンドユース  
～港混雑の解消、CO2 削減に向けた貢献～

年間 CO2 削減率：54%

横浜港を利用する輸入コンテナの一部をいすゞロジスティクス(株)の輸出コンテナで使用するコンテナラウンドユースの運用を開始し、空コンテナ回送量を減らすことで、CO2 排出量削減とドライバーの運用効率向上を実現した。各所の倉庫位置が近いため無理なく続けられ、今後もサステナブルな運用を続けていく。

受賞者：ヤマト株式会社  
株式会社カナメカーゴ

案件名：「自転車の幹線輸送」鉄道輸送へのモーダルシフトチャレンジ

年間 CO2 削減率：75%

年間 CO2 削減量：8.9t

兵庫県から埼玉県への自転車輸送について、トラック輸送から 12 f t コンテナを利用した鉄道輸送(京都貨物駅～新座貨物ターミナル駅)に転換した。今後、自転車以外の商品の混載を実施し、同一配送エリアのライバル企業同士の鉄道輸送を利用した共同輸送・配送を 6 月より運行中。

受賞者：株式会社 ランテック

案件名：フェリー無人航送を利用した九州・関西間のモーダルシフト

年間 CO2 削減率：43%

年間 CO2 削減量：265t

佐賀県から大阪府へのトラックによる中継輸送からフェリー（新門司港～大阪南港）を利用した海上輸送にモーダルシフトした。切り替え前と比べて CO2 排出量が削減され、半数のドライバーで同様の輸送が可能となった。

受賞者：株式会社ロジスティクス・ネットワーク

株式会社ウオロク

株式会社シノプス

案件名：需要予測発注システムを活用したリードタイム延長による  
CO2 削減

物流改善の取り組みとして 3 社協働で需要予測発注システムを活用し、リードタイム延長による影響を分析・最小化した。それにより、積載効率・作業生産性を向上、配送車両・待機時間を削減し、CO2 排出量の削減を実現した。

受賞者：株式会社ロジスティクス・ネットワーク

ニチレイロジグループ地域各社

案件名：次世代輸配送システム「SULS」(サルス)を活用した CO2 削減

年間 CO2 削減率：36.8% ※変更区間における前年比

全国にあるニチレイロジグループの自営拠点と、24 枚のパレット積載が可能かつ荷台が切り離し可能な自社冷凍トレーラーを活用した、次世代輸配送システム「SULS」を 2022 年度より開始。トレーラーへの積み置き作業実施による乗務員積込時間や車両待機時間の削減、16 枚積みから 24 枚積みへの変更による効率化を実現し、CO2 削減に貢献した。

受賞者：AS ブレーキシステムズ株式会社  
碧南運送株式会社  
鈴与株式会社  
鈴与カーゴネット株式会社

案件名：陸上輸送からフェリー輸送への切替による CO2 ならびに  
乗務員拘束時間の削減

年間 CO2 削減率：53.8%

年間 CO2 削減量：204t

兵庫県から福岡県への自動車部品の輸送について、トレーラーによる陸上輸送からフェリー輸送（神戸港～新門司港）に転換した。切替え前に比べて CO2 排出量を大幅に削減し、兵庫県・福岡県それぞれ 1 名の乗務員で 2 回の配送集荷を行うことができるようになった。またフェリー輸送は無人航走であるため乗務員拘束時間も削減することが出来た。

受賞者：SBS 東芝ロジスティクス株式会社  
株式会社ジャパンディスプレイ

案件名：ガラス液晶パネル輸送における、DFL（Design For Logistics）  
による包装材料削減と輸送効率向上

年間 CO2 削減率：36%

ガラス液晶パネルの輸送において、2 つの製品を同時に梱包することで輸送効率を上げ、輸送回数を減らすことで、CO2 排出量を削減した。製品の特性上、一製品ごとに包装材料を使用して製品を保護していたが、包装設計（DFL）による梱包の見直しで梱包材量の大幅削減と輸送効率向上を達成した。

以上